

Juichi WAKISAKA Race Report

2014 AUTOBACS SUPER GT Round 2 -FUJI GT 500KM RACE-

◆◆ 苦境を経て、7位入賞を手にする ◆◆

No. 19 WedsSport ADVAN RC F					
Drivers	Qualifying	Final			
脇阪 寿一 / 関口 雄飛	9位	7位			



■大会概要

開催日：2014年5月3日-2014年5月4日

サーキット：富士スピードウェイ（静岡県御殿場市、コース全長：4.563km）

レース距離：110周（501.93km）

入場者数：予選日32, 200名、決勝日57, 200名、合計89, 400名

5月3-4日、静岡・富士スピードウェイにおいて SUPER GT シリーズ第2戦「FUJI GT 500km Race」が開催され、脇阪寿一は No.19 WedsSport ADVAN RC F とチームパートナーの関口雄飛とともに、予選9番手からスタートを切り、500km の長丁場ではときに厳しい状況におかれながらも最後の最後まで諦めない走りを重ね、7位でチェックを受け、シーズン初ポイントを手にすることとなった。

GT500 のすべての車両が刷新され、新たな時代を迎えた SUPER GT。脇阪が新たに加入した LEXUS TEAM WedsSport BANDOH はライバルチームよりも後発の車両デリバリーとなり、存分なテストもないままにシーズンインした経緯がある。しかし、第2戦の舞台はシェイクダウンを兼ねた公式テストが行われた場所でもあるだけに、少しでも明るい材料が揃っていると前向きに捉えたい。その一方で、開幕戦を経て、TRD では富士仕様のエアロパッケージを開発、今回の車両に装着されることで、クルマにはまた異なるフィーリングが生まれてくると思われる。チームでは、事前に TRD スタッフやタイヤメーカースタッフらとのミーティングを精力的に重ね、500km をいかに戦うか、緻密な戦略を用意することとなった。

■5月3日(土)

09:00-11:00 公式練習

14:15-14:30 ノックアウト予選 (Q1)

15:00-15:12 ノックアウト予選 (Q2)

【公式練習】 9番手 / 1'31.016

午前9時、公式練習がスタート。澄み渡る青空を背にした富士山にはまだ雪化粧が残るもの、場内は極めて穏やかな天気に恵まれた。気温20度、路面温度29度の中でセッションが始まった。まず No.19 WedsSport ADVAN RC F には関口選手が乗り込み、走行を開始。出走からほどなくしてタイムアップに入ると、あっという間にトップタイムをマークする勢いを披露したのだが、その後はクルマをピットに戻し、待ちかまえたスタッフが作業に取り掛かった。走行中に違和感があったということから、トラブルシューティングを開始したスタッフ。慌てることなく的確な作業を行い、関口選手を再びコースへと送り出した。

さらに安定したクルマを手にした関口選手はチームベストタイムを更新、その後、脇阪がステアリングを預かり、新たな走行を開始する。セットアップを進めるために周回を重ねていたのだが、午前10時40分頃、19号車として21周目を走行中、1コーナーへ向うメインストレートでタイヤが突然のバースト。しかし脇阪はハイスピードの中、懸命にクルマをコントロール、車体へのダメージを最小限に食い留め、ペースを落しながらクルマをピットへと戻した。

GT300 専有走行を経て、GT500 専有のセッションがスタート。No.19 WedsSport ADVAN RC F はピットでの修復作業を完了させ脇阪をコースに送り出し、固めのタイヤで1分31秒6のタイムをマーク。マイレージを少しでも重ね、セットアップの確認作業をしたいというチームの思惑にきっちりと応えて見せた。チームとしては公式練習を1分31秒016、9番手のタイムをもってセッションを終えている。





【ノックアウト予選（Q1）】 9番手 / 1'30.399

開幕戦同様、ノックアウト方式の予選が午後 2 時 15 分にスタート。気温 22 度、路面温度 36 度と午前のセッションよりも数値が高くなっている。GT500 では出走全 15 台のうち、Q2 に進出できるのは、上位 8 台のみ。まず No.19 WedsSport ADVAN RC F は上位 8 台入りを目標に、関口選手をアッパーとして送り込んだ。

GT300 の Q1 が終わり、その流れで GT500 の Q1 はスタートするも、全車両が依然としてピットで待機している。張りつめた空気の中でワンラップアタックの勝負となる“その時”を互いに牽制しながら待っているという感じだ。そしてセッション終了まで 10 分を切った頃、各車がコースへと一斉になだれ込む。

関口選手は順調にタイムアップし、タイヤを温めていく。そして計測 4 周目には、富士スピードウェイのコースレコードを更新する 1 分 30 秒 399 をマーク、5 番手までジャンプアップ！ だがしかし、ライバルたちも大幅に自己ベストタイムを更新しており、最終的には 9 番手に。上位 8 台まであと一步、僅かの差で Q2 進出を逃してしまった。

またも Q2 でのアタックを迎えることなく予選日を終えた脇阪。だが、「今の我々が持つポテンシャルを考えれば、すごく健闘した結果だと思います。順位が 9 番手ということだけで、やっていることに対し、結果が出ている」と前向きに捉えている。「現状でタイヤが安定して走れるような状況も整ってきたので、明日は着実に 500km のレースを走り、経験値を上げるとともにデータをたくさん集めていきたい」と抱負を口にした。



■ 5月4日(日)

08:30-09:00 フリー走行 (09:10-09:25 サーキットサファリ)
14:00- 決勝 (110周)

【フリー走行】 10番手 / 1'32. 133

連休中のレース観戦ということもあり、前日の予選日多くの観客がサーキットを訪れていたが、決勝日はさらなる集客となり、レースウィーク中に8万9千人を超えるファンが熱戦を見守った。

前日同様、富士山が美しい姿を披露する中、午前8時30分からフリー走行がスタート。気温17度、路面温度28度の中、決勝に向けての最終確認が始まった。今回はレース距離が500kmということもあり、レース中のルーティンピットワークは2回。関口選手-脇阪-関口選手というオーダーでレースを組み立てている。まずは関口選手がNo.19 WedsSport ADVAN RC Fに乗り込み、コースへ。セット確認を済ませるとピットに戻り、今度はドライバー交代をシミュレートする。

コースに向った脇阪はフィーリングをチェックしながら走行を続けたが、突然、駆動系のトラブルが発生。ピットインを余儀なくされる。トラブルの修復には時間がかかり、フリー走行直後のサーキットサファリもスキップせざるを得ない状況。結果、No.19 WedsSport ADVAN RC Fは関口選手が序盤にマークした1分32秒133、10番手で朝のセッションを終えることになった。



【決勝】 7位 / 4ポイント獲得 (シリーズポイント: 4ポイント、シリーズランキング: 10位)

やや風は冷たいものの、絶好のレース日和になった決勝直前。ダミーグリッドは多くの人だかりで賑わいを見せた。慌ただしい作業に追われ続けたNo.19 WedsSport ADVAN RC Fも、その中にクルマを並べ、決勝の時を待った。

気温20度、路面温度32度の中、フォーメーションラップがスタート。セーフティカーに先導された全38台がコースを次々に離れていった。開幕戦では隊列が整わず、2周のフォーメーションラップとなつたが、今回はスムーズにスタートが切られ、500km、110周の戦いが幕を開けた。

No.19 WedsSport ADVAN RC Fのスタートドライバー、関口選手はポジションキープでオープニングラップを終了。しばらくの間、9番手からレースを伺うことになる。だが、早くも4周目にGT300の車両がストレートエンドで大破、SC(セーフティーカー)ランが始まる。SCによるコントロールは9周終了をもって解除され、再びレースがスタート。早速サイド・バイ・サイドによるバトルを見せた関口選手はその後もノーミスで周回を重ねていった。

レースはさらに19周目に入って、GT500の上位マシンが車両火災に見舞われるハプニングが発生。再びSCランが導入される。レースは奇しくも序盤から波乱の展開になったが、No.19 WedsSport ADVAN RC Fは自分たちのレースを遂行、落ち着いて周回を重ねていくことに。そして、37周終わりでルーティンワークのピットインを行った。

脇阪はまずクルマの現状を確認しつつ、緩急を突いた攻めの走りを披露。だが、前日からクルマにはトラブルの“元”が残っているだけに、つねに全開！というわけにはいかない。時にはガマンを、時にはスムーズなコントロールを、と様々な条件に対処しながら、ベテランに相応しいレース運びに徹する。一方でレースは周回を重ねていくうちに、コース上で急なスローダウンや、クルマ同士の接触など、ハプニングがあちこちで起こる展開となったが、そんな中でも脇阪は冷静な走りを続けていった。

迎えた2度目のルーティンワークは75周終了時。暫定6番手で関口選手へとバトンタッチを行う。コース復帰後は8番手からの追い上げを開始。関口選手はクルマを労りつつ、最後まで力強い走りを見せ、レースをフィニッシュ。No.19 WedsSport ADVAN RC Fは厳しいコンディションに耐え、7位入賞という結果をもって第2戦の戦いを終えることになった。



タフで長いレースを終えた脇阪は「厳しいレースだったし、トラブルを抱えながらの走りとなりました。様々な理由によるガマンのレースでした。攻めたいという気持ちをコントロールするというもどかしさもありましたが、これもGTレース。結果として、7位入賞、ポイント獲得という成果を残すこともできました。これも大事な仕事ですから」とコメント。「一時はクルマのトラブルによって、レースを最後まで続けられるかどうか、わからない状況だったことを考えれば、今回の完走は大変価値があると思います。次の週末にはSUGOでオフィシャルテストが行われるので、ここでまたしっかりと走り、データを取り、さらなるポテンシャルアップを目指します。そして第3戦オートポリスでは速くて力強いNo.19 WedsSport ADVAN RC Fの姿を皆さんにお披露目したいと思います」と力強く宣言した。

次戦は、5月31日(土)-6月1日(日)にオートポリス(大分県日田市)で開催される。

[Photo Gallery]



